

2017年 2月14日

山梨県教育委員会

教育長 守屋 守 様

山梨県児童・生徒連絡協議会

会 長

生原 萌



「子ども・保護者・教職員の会」で話し合われたことの報告

私たち山梨県児童・生徒連絡協議会（以下、児生連）は、2016年11月19日、笛吹市立春日居小学校において、第66回「子ども・保護者・教職員の会」を開催しました。児生連活動の目的は、「自分たちの問題を、みんなの力で解決していくこと」です。自分たちが未来を担っていくという自覚を持ち、助け合い運動やボランティア活動等、様々な問題に積極的に取り組んでいます。1年に1回、県下の小中学校の代表が集うこの会は、大変意義があるものとなっています。

本年度のこの会でも、各学校・地区で、児童会・生徒会を中心に組み込んだ活動を発表し合い、交流することで、お互いに学び合い、高め合うことができました。みんなが楽しく、充実した学校生活を送るためには、私たち児童・生徒と先生方、保護者の方々が協力し、より良い学校をつくるために話し合い、行動することが大切だと思います。

ここでは、本年度の「子ども・保護者・教職員の会」で話し合われたことを報告します。私たちの夢や希望の実現のため、より良い学校・社会づくりのために、知事さんをはじめとする皆様方のご協力をよろしくお願いします。

1 全体会で話し合われたこと

(1) 児生連活動について

今年度で 66 年目を迎えるこの山梨県児童生徒連絡協議会の活動（児生連活動）。長い歴史の中で、諸先輩方が歩まれてきた児生連活動の意義や目的を再確認し、これからの児童会・生徒会の活動について参加者全員で話し合いました。活発な討議がされる中で、甲府地区の中学校から「他校の実践に学び、自校の実践を見つめ直す良い機会であると同時に、保護者の方々にも私たちの実践を知ってもらう貴重な機会である。今後もこの会を有意義なものとしていきたい。」と力強い意見をいただきました。



(2) 助け合い活動やボランティア活動について

2016 年 4 月、熊本県を中心に発生した熊本地震。私たち児生連は、県下全ての公立小中学校に呼びかけて熊本地震災害義援金活動を行いました。短期間ではありましたが、600 万円を超える多くの善意を日本赤十字社を通じて熊本県に届けることができました。

また、私たちは毎年、古切手・ベルマークの回収を行い、勝沼授産園に届けています。昨年度も児生連活動として古切手を 374kg 集め積極的に協力することができました。勝沼授産園では集めた古切手をフィリピンの子どもたちに救援物資を送るための輸送費に充てる活動をしています。全体会の中でも「国内外を問わず、広い視野に立って活動をすすめていきたい。」「古切手を有効に活用して世界の人たちを助けていきたい。」という前向きな意見が発表され、今後も積極的に助け合い活動やボランティア活動を行っていくことが承認されました。

(3) アフリカ飢餓救援米活動について

アフリカ飢餓救援米活動は、30 年以上もの間、峡南地区児生連が中心となって行っている活動です。今年度も峡南地区の事務局より、全県下に広がる活動の様子やその意義についての詳しい説明がありました。昨年度は、県下の 214 校がこの活動に参加し、7,066kg のお米が集まったそうです。協力校も毎年増えているとのことで、長い年月をかけて県下全体での取り組みへと変化してきているように感じました。今年度も峡南地区の中学校より、多くの学校の参加を求める提案があり、「今日の提案を、それぞれの学校に持ち帰り、みんなに呼びかけて積極的に取り組んでいきたい。」などの賛成意見が多く出され、今年も全県下で協力していくことを確認しました。



(4) 全体会のまとめとして

全体会の終わりに、決意表明として、

①各学校、各地区での活動の成果を交流し合う。

②会員のもつ意見・願い・悩みなどを出し合い、解決に努める。

③奉仕的な活動を行う。

④第66回教育祭『子ども・保護者・教職員の会』などの集会を成功させる。

の4点を活動目標とした決議文が提案され、参加者全員の拍手によって承認されました。

2 分科会で話し合われたこと

「児童会活動1・2」、「生徒会活動1・2」、
「児童・生徒会活動」の5つの分科会に分かれて、
各校の取り組みを交流しました。児童会・生徒
会活動や学校行事を通して、全校が仲良くなり、学校
がさらに楽しく規律ある場所となるような活動が数
多く報告されました。

小学校では、あいさつ運動や決まりを守る活動な
ど「たてわり班」活用して高学年が低学年の手本とな
る取り組みが多く多くの学校で実践されていました。ま
た、募金活動や清掃活動等のボランティア活動に力
を入れている学校が数多くあることも知りました。

中学校では、各校の伝統を生かした学園祭への取
り組みが多く報告されました。伝統を守るだけでな
く、そこに自分たちの思いやアイデアを加えて取り
組む姿に、各校の意気込みを感じました。また、合
唱や部活動など自分たちで協力し合い創り上げる活
動にも力を入れている様子が報告されました。

自分たちとは違った地区の学校の活動を知ること
で、来年度の活動に活かしていく良いヒントをもら
えた分科会となりました。私たちは、学校生活をより
良いもの、より楽しいものにするためにこれまで実
践されてきている良いことは継続し、新しい活動に
も積極的にチャレンジしていくことをそれぞれの分
科会で確認しました。



3 おわりに

本日は、私たちの話を聞いていただく、このような場をつくっていただいたことに、心から感謝申し上げます。

私たちは、これからも先生方と一緒に保護者の方、地域住民の方々の協力を得ながら、よりよい学校づくり、友だちを大切にしてみんなで楽しく学び合える、充実した時間を過ごせる学校づくりをめざして、児童会・生徒会活動に取り組んでいきます。さらには、地域に住む一員、地球に住む一員としての自覚を持ち、みんなが快適に生活できる地域や環境づくりにも目を向けながら、児童会・生徒会活動に取り組んでいきます。これからの活動がさらに充実したものになるよう、知事さん、教育長さんをはじめ、みなさんのご協力をよろしくお願いします。

東山梨 地区

<小細澤 桃子さん>

東山梨地区では、7月の研究会に全国各地で「幸せの種まきキャンペーン」をしている SYD という団体の方に来ていただきました。講演からフィリピンのゴミ捨て場で生活している子供たち、学校へ行きたくても行けない子供たちの現状を知り、衝撃を受けました。そして、思いやりの心は世界に向けて発信できるということを学びました。広い視野をもち、世界中の子どもたちを助けられる活動が1つでも多くできると良いと思います。11月の研究会では、分科会に分かれてそれぞれの学校で特徴的な取り組みについての発表をしました。お互いに意見を交換しながら刺激し合うことができ、大変勉強になる機会となりました。

<橘田 瑚夏さん>

奥野田小では、体力作りの一環として週に3回「すあし」で朝マラソンを行っています。そこから児童会の目標を㊟なおな心をもち礼儀正しい子、㊠かるく仲良く元気に遊ぶ子、㊡んせつで優しい子の三つを掲げて様々なことに取り組んできました。その中から3つ紹介します。1つ目はハイタッチあいさつ運動です。全校みんなが元気よくあいさつができるようになるために、毎朝、執行部が玄関前に立ち、ハイタッチをしながらあいさつをしました。執行部だけではなく、学年ごとに順番を決めてその運動に参加してもらったり、ポスターを掲示したりもすることで、全校のあいさつに対する意識がだんだん高まってきました。2つ目は、様々な縦割り班活動です。団結力を高めるために春にはスポーツ集会、地域のお年寄りの方とのふれあいを深めるために秋にはふれあい集会を行ったり、学期に1度「なかよしタイム」を設け、縦割り班ごとに休み時間に遊んだりし、縦割り班の仲間がより仲良くなるような活動を行いました。3つ目はボランティア活動です。困っている人への収集活動として、年間を通じてベルマークや古切手、アフリカ救援米、募金、書き損じはがきなどを集めました。全校みんなが参加してボランティアの和を広げることができました。

<小細澤 桃子さん>

松里中学校では夏の SYD の講演を受け、ノートや鉛筆等の各家庭にある学用品をフィリピンの子どもたちに送る活動を実施しました。また、11月にボランティア強化週間を設けて、縦系列ごとにペットボトルキャップと切手の重さを競い合いながら集めました。短期間ではありましたが、みな意欲的にボランティア活動に参加できました。

「子ども・保護者・教職員の会」等、山梨県内の児童会・生徒会の交流の場が設けられていて、お互いに学びあうことができてありがたいです。県の事業としても、小中学生を対象とした国際的な視野を広げるための国際交流行事や、様々な講師の方にワークショップをしていただきながら学ぶ場があると、リーダーとしての資質がより向上できると思います。

今年度も残り少なくなりましたが、東山梨地区の児生連活動がより良いものになるよう頑張っていきたいです。

笛 吹 地 区

<生原 萌さん>

笛吹地区では

- ・ アフリカ飢餓救援活動（各校）
- ・ 古切手やせっけん集め，書き損じはがき集め（各校）
- ・ 環境美化活動（各校）
- ・ ブロック児生連会議，ブロック交流会
- ・ 第2回笛吹地区児生連会議の中学校部会では「当たり前のことを当たり前にする」という点において「笛吹地区の中学校での当たり前は何か」について話し合い，①時間②あいさつの徹底を各校で図り，笛吹市全体を活性化させよと確認をとりました。

<榊原あかねさん>

御坂西小学校の児童会活動の紹介をします。「明るく楽しく協力し心をつなぐかしの木っ子」をテーマのもと，特に「あいさつ運動」「異学年縦割り班活動」「ボランティア活動」「花いっぱい運動」「無言清掃」に力を入れて活動をしています。しっかりあいさつできたかしの木っ子にはポイントカードを渡し学年ごとのポイントを集計して玄関に掲示しています。「異学年縦割り班活動」は，4月の仲良し班集会に始まり，運動会，秋のお祭り，そして3学期の仲良し班集会と1年間通じての活動を展開しています。御坂西小といえば，「花」を言われるくらい「花いっぱい運動」にも力を入れています。種から花を育て，日常の水やりはもちろん夏休みも高学年全員が交代で水やりをしています。全校児童530名で協力し笑顔あふれる学校をつくってこうと取り組んでいます。

<生原 萌さん>

- ・七夕かざり（御坂中学校・一宮中学校）
 - ・校歌を歌おう ～校歌を全校でしっかり歌う取組～ 時間を守ろう（石和中学校）
 - ・全校クリーンアクション，ありがとうの樹（春日居中学校）
 - ・あいさつ運動（・浅川中学校，春日居中学校，石和中学校）
 - ・脱いじめ集会（御坂中学校）
 - ・清掃プロジェクト（浅川中学校）
- と各校でそれぞれ特徴のある活動を展開しています。

次年度につながる活動も多く来年度以降も笛吹地区全ての学校で児童生徒自らより良い学校づくりにとりくんでいきたいと思います。

峡 南 地 区

<芦澤 歩さん>

はじめに、峡南地区全体での活動の様子を紹介します。峡南地区児童生徒連絡協議会では昨年末に、アフリカ飢餓救援米活動を行いました。峡南地区を中心に、県内の小中学校への呼びかけなどを行いました。その結果、200校以上の参加があり、全体で約6.5tのお米が集まりました。このお米はすでに日本を出発し2月上旬にアフリカのマリ共和国に到着する予定です。この活動も今年で33年目を迎え、峡南地区の小中学校を中心として、今では県全体へと広がりを見せています。この活動に対して、山梨県からのご支援が頂ければ、学校関係だけでなく更に大きな取り組みとして県全体へ広がっていくと思います。是非山梨県からのご支援を宜しくお願いします。

<梶原峻吾さん>

次に、市川小学校の児童活動を紹介します。私たちは、今年度「元気・本気・根気で360人の笑顔をかがやかせよう!」をテーマに、活動を進めてきました。具体的な目標として①明るく笑顔であいさつをしよう②チャレンジしてみんながチェンジすればキラキラ輝く学校へ③一人ひとりが自分の意見をもつ、という三つを掲げました。今年は特に、あいさつ運動と全校の交流を深める活動に力を入れてきました。あいさつ運動では、校内だけでなく、地域にもあいさつの輪を広げ、町をあいさつでいっぱいになろうと取り組んできました。

全校の交流では、たてわり班集会を行い、1年生～6年生まで一人1役で協力しながら会を成功させました。また、各学年や委員会・クラブの発表を全校集会で行っています。残り少ない期間ですが、よい伝統を残していくために、これからも全校全員でがんばっていきます。

<芦澤 歩さん>

次に市川中学校生徒会の取り組みの様子を紹介します。本校では生徒会スローガン「PUZZLE～最高の思い出を229の夢のピースで～」のもと、基本がしっかりできる学校を目指して活動を行っています。その中から、本校の伝統の取り組みを2つ紹介したいと思います。

1つめは3大清掃です。市川中の伝統として行っています。3大清掃とは、15分間の掃除を無駄口せず行う「無言清掃」。集中して掃除を行うため膝をついて清掃をする「膝つき清掃」。細かいところまで綺麗にするためにする「見つけ清掃」この3つをあわせて清掃をより質のいいものにしようという取り組みのことで、2つめは、あいさつです。毎日登校時にあいさつ隊によるあいさつ運動やすれ違ったときにあいさつをすること、そして、今年度から立ち止まって相手に伝えるあいさつがしっかりできるように取り組んでいます。3大清掃やあいさつを意識して行うことで、毎日充実した学校生活をおくっています。

この他にも本校では、委員会を中心に協力率100パーセントを目標に、ボランティア活動に取り組んでいます。アフリカ飢餓救援米活動や古切手・テレフォンカードの回収など、全校生徒が参加して、ボランティアに関わっています。

これからも峡南地区の児生連活動が活発になるように取り組んでいきたいと思っています。

最後に、せっかくの機会ですので、後藤知事さんにお願いがあります。峡南地区にはみんなが集まって遊べる場所が少ないように思うので、公園などのみんなが集まって遊べる場所を作っていただきたいです。また、みんなが安心できるように、交番をもう少し増やしていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

中巨摩 地区

<近藤大介さん>

中巨摩地区では「全校の児童・生徒がいきいきする児童会・生徒会活動」という児生連の活動方針に基づき、子ども保護者教職員の会を開催しました。全体会で、増穂小学校の成瀬先生に来ていただき、アフリカ飢餓救援米の行方についての内容の講演を行いました。峡南地区からはじまったアフリカ飢餓救援米の活動も全県で活動するようになりましたが、細かいところまで知る機会がなかなかありませんでした。今回の講演をきっかけになお一層ボランティア活動を進めていきたいと考えることができる内容でした。

<中込歩志さん>

次に三村小学校の紹介をします。三村小学校の児童会のテーマは「スマイル」です。全校児童が笑顔で毎日を過ごすために、4つの活動に力を入れて取り組んでいます。1つ目は「進んであいさつ」です。学校全体にあいさつの輪が広がるよう、学期ごとに工夫をしながらあいさつ運動をしています。2つ目は「まごころ」です。具体的には、愛校作業やボランティア活動を中心に行っています。3つめは「いじめゼロ」の取り組みです。悩み相談ボックスや、感謝の気持ちをメッセージカードに書いて相手に届けるスマイルカードを通して、いじめを防止する活動をしています。4つめは「ルールを守る」取り組みです。廊下歩行のルールを守る声かけや5分前行動の呼びかけを主に行っています。以上4つの活動の頭文字を取ると「スマイル」になり、笑顔があふれる学校を目指して活動をしています。

<近藤大介さん>

次に玉穂中学校の紹介をします。本年度の玉穂中学校の生徒会テーマは「あい」です。活動の柱として「生活：EYE～生活面の課題を見つめ直して～」 「委員会活動：愛～愛校心を持って～」 「部活動：I～自分との闘い～」 「行事：合い～仲間との認め合い、助け合い～」の4つを設定し、年間を通して活動を行ってきました。生徒会本部だけで活動するのではなく、多くの部活動や委員会を巻き込むことを意識し、「全校で玉穂中学校を創っている」という意識を強調してきました。具体的には部活強化週間や清掃強化週間、学習強化週間などの設定を委員会や生徒会本部が中心で行いました。部長会を開き部活動を通して下校時間の徹底なども呼びかけてきました。また、本年度は創立30周年の記念の年でもありました。学園祭である昇龍祭でも「節目」を意識する内容を計画し成功することができました。

これからも中巨摩地区児生連として現状に満足することなく、より良い活動をめざしてがんばっていきたいと思っています。

北巨摩 地区

<丸山真由さん>

北巨摩地区では 10 月 18 日に第 66 回「峡北地区児生連集会」を開催し、それぞれの学校で取り組んできたことを発表し合い、参加者から多くの質問や意見が出されてとても良い機会となりました。全体会においても多くの意見が出され、活発な討議となりました。また、峡南地区で行われているアフリカ飢餓救援活動に協力するためにお米を集め、代表の児童生徒が峡南地区の人たちと一緒に、袋に詰め作業を行いました。

<土井健太郎さん>

次に葦崎小学校の取り組みについて紹介します。葦崎小学校では、「みんなは 1 人のために一人はみんなのために～輝け 1 人 1 人の色～」というテーマのもと、みんなが輝く学校を目指して様々な活動をしています。今年度は、特に「仲間づくり」を意識した活動を行っています。これまでに、全校児童のみんなが仲良くなれるように縦割り班で遊んだり、葦小オリンピックを開催したりしました。また、みんなが思いやりの気持ちが持てるように友達にしてもらってうれしかったことなどを伝える「思いやりカード」など、楽しみながら「仲間づくり」ができるように取り組んでいます。これからも、一人一人が輝ける学校を目指して取り組んでいきたいと思っています。

<丸山真由さん>

次に甲陵中学校の活動について紹介します。私たち甲陵中学生徒会では生徒一人ひとりの個性を生かし、楽しく充実した学校生活が送れるように様々なことに取り組んできました。その中でも、特徴的な活動は生徒一人一人のアイデア、考えを吸い上げる仕組みづくりです。学校内に Idea ポストを設置したり、ネットワーク上に電子 Idea ポストを開設したりするなど、誰でも気軽に投稿できるようにしました。また、それらと並行して、生徒会活動に関する意見をアンケート形式で聞き取るなど、全校生徒が生徒会活動に関わることができるように工夫して取り組んでいます。

私たち北巨摩地区児生連がめざす「みんなが参加する活動」を実現するために、これからもがんばっていききたいと思っています。

南都留 地区

<天野莉緒さん>

南都留地区では募金活動や歳末助け合い運動，世界中の人を救いたいという思いからアフリカ飢餓救援米への協力など，ボランティア活動を強化してきました。これからも積極的に取り組めるように南都留地区で努力していきたいです。また，「南都留地区子ども保護者教職員の会」を通して，各学校の取り組み等の実践発表を通し，お互いに学びあい，児童会・生徒会活動に活かしてきました。

<樋口実桜さん>

下吉田東小学校児童会は，「みんなでつくろう EAST カラー！東小だけの輝く色」というテーマのもと，「E：笑顔がすてき！なあいさつをしよう！」「A：ありがとう！がたくさんあふれる学校をつくろう！」「S：すっきり！気持ちよい生活をしよう！」「T：たのしい！うれしい！をたくさん感じて元気にすごそう！」の「EAST」の頭文字をとった4つのめあてにそって活動をしています。

E では，毎週金曜日の朝「あいさつ運動」を行い，元気よく気持ちのよいあいさつができるように心がけています。A では，6月にお年寄りを招いた「すずかけ交流集会」を行っています。全体会とクラス交流会の2本立てで，交流をしながらおもてなしをします。S では，毎週金曜日のそうじの時間を「ピカピカデー」とし，めあてを決めてしっかりとそうじができるように全校で取り組んでいます。T では，「ゲームラリー集会」を行います。たてわり班ごとに考えたゲームのお店を作り，みんなで楽しく遊びます。遊んだあとは，たてわり班でのお弁当集会でさらに仲を深めています。

このように，いろいろな面から下東小の伝統を引き継ごうとみんなで意識して取り組んでいます。

<天野莉緒さん>

忍野中の特徴的な活動を紹介します。今年度は「笑華」というテーマのもと，忍中生全員が笑顔になり，「忍野中が好きだ」と思える学校づくりを行っています。活動重点として，「日常生活」，「伝統」，「つながり」の3つを掲げています。特に，「つながり」では，学園祭のブロックで合唱を行う，「ブロック合唱」を行い，学年を超えた「つながり・絆」の強化と共に，伝統の1つである「合唱」の向上を意識した活動を行っています。これからも忍野中全校に笑顔の華が咲かせられるような活動を日々行っていきます。

これからも南都留地区児童生徒連絡協議会は，伝統を引継ぎ発展させながら，過ごしやすい学校づくりに向けてがんばっていきたいと思います。

北都留 地区

<平井駿之介さん>

北都留地区では、10月27日に上野原市庁舎で、第66回「子ども・保護者・教職員の会」を行いました。全体会では、積極的にボランティア活動に参加していくことが確認されました。また、分科会では、小学校12校、中学校7校がそれぞれの学校の取り組みや特徴などの意見交換をしました。各学校の良い点を参考に、さらにより良い活動を各学校で行っていききたいと思います。

<佐藤瑠菜さん>

秋山小学校の活動を紹介します。今年度新たに「全校なかよしタイム」という活動を取り入れました。休み時間、晴れの日には校庭で鬼ごっこ、雨の日にはトランプや室内ゲーム、体育館で体を動かしたりして、全校で遊ぶ時間をつくりました。全校のみんなが進んで参加してくれ、以前より仲が深まったと思います。また、ミニ運動会を開き、仲間と協力しながら取り組める競技を数種類設定しました。これらの競技は、練習しないと上手にならないものにしました。なぜかという、何度も練習することで、仲間との絆を深められ、協力することの大切さを学ぶことができるからです。練習を重ねていくうちに、自然と仲間との距離が縮まり、どんどん上手になりました。みんなが一つの目標に向かって頑張ることができました。

<平井駿之介さん>

大月東中学校の紹介をします。大月東中学校では、「当たり前のことができる学校」「仲の良い学校」「思いやりの持てる学校」この3つを重点目標に活動してきました。今年度は授業開始のチャイムが鳴る前に準備して着席する「チャイム席」の取り組みや、授業の様子を教科担当の先生が評価し、昼の放送で各クラスの結果を報告する「授業評価」の取り組みを重点的に行いました。また、部活動強化週間の設定や都留高校との部活動交流などで、部活動の活性化・強化にも取り組みました。課題も出ましたが、来年度以降につなげられる活動ができました。

来年度も北都留地区の児生連活動がさらに活発になるようにみんなで意見を出し合い、高め合っていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

甲 府 地 区

<一志健太さん>

甲府地区では6月に甲府市少年議会を甲府南中学校体育館で行いました。今年度は「笑顔あふれる『共生』のまち“甲府”～人・まち・自然をつなぐ～」というスローガンを設定しました。

誰もが住みたくなる「笑顔あふれる甲府」を目指して、環境保全や熊本地震に対する義援金活動などボランティア活動を含め、4つの重点項目を決定しました。また、私たちのまち甲府は平成31年に開府500年を迎えます。甲府市少年議会では、開府500年を機により多くの人に甲府を知ってもらう機会にしたいと考えました。そこで、まず私たち自らが甲府の魅力を再確認しようと考え、各校甲府の魅力について調べる活動を行いました。

<菊池彩恵さん>

次に中道南小の取り組みを紹介します。中道南小の児童会活動のテーマは「元気いっぱい南小」で取り組んでいます。友達同士や先生方へのあいさつだけでなく、お客さんへのあいさつにも力を入れているので、学校内に活気がでてきています。全校児童82人と少ないですが、一人ひとりが分担をしっかりとって、チョコボ（ボランティア活動）にも積極的に取り組み、全校の意識が高まっていると感じています。3学期も声をかけあいながら頑張っていきたいです。

<一志健太さん>

今年度の甲府南中学校の活動を紹介します。今年度は「開花」のテーマのもと、日常生活の向上としてJRC委員会活動の充実と伝統である応援・合唱・演劇に力を入れて取り組み、学校全体が一体となって笑顔あふれる学校づくりを行ってきました。ボランティア活動としては、①エコキャップ集め②古切手・書き損じはがきの収集、そして峡南地区の活動に賛同し、今年度より「アフリカ飢餓救援米活動」にも取り組みました。また、開府500年への取り組みとして、夏休みに甲府についての調べ学習を行い、学園祭で発表しました。来校した保護者や卒業生たちにも活動を紹介することができました。

甲府地区36校全ての学校で児生連活動を盛り上げ、みんなが楽しく学校生活を送る事ができるように来年度もがんばっていきたいと思います。